

学校給食シンポジウム～地場産物の使用拡大に向けて～ 参加者アンケート

1. 性別

☐男性 ☐女性

2. 年齢

☐20 歳代 ☐30 歳代 ☐40 歳代 ☐50 歳代 ☐60 歳代 ☐70 歳以上

3. ご職業

☐農業者 ☐漁業者 ☐地産地消コーディネーター ☐学校教育関係者 ☐栄養士
☐調理師 ☐その他

4. 事例発表の中で、参考になった団体はございますか？ ※複数回答可

- ☐近藤ファーム
「東京都産野菜の都内学校給食への普及」
☐滝沢市学校給食食材生産提供組合
「生産者・調理員・滝沢市みんなでつなげる学校給食」
☐岩手県学校栄養士協議会
「学校給食を通して伝えたい地域の魅力～地場産物を活用した取組について～」
☐気仙沼の魚を学校給食に普及させる会
「持続可能な水産業と魚食普及への取組について」
☐参考にならなかった

5. 事例発表で具体的に参考になった部分はどのような点ですか？

6. パネルディスカッションの内容は理解頂けましたか？

☐とてもよく分かった ☐分かった ☐どちらでもない ☐分からなかった ☐全く分からなかった

7. パネルディスカッションで参考になった部分がありましたらご記入ください。

8. 現在地産地消に関する取り組みは何か行われていますか？

☐行っている ☐取り組みを始めようと思っているが、現状行えていない ☐行っていない

9. 上記で「行っている」とご回答された方は、具体的にどのような活動を行われていますか？

10. 今後地産地消の取り組みを行っていきたい、継続していきたいと思いましたが？

☐ぜひ行っていききたい ☐行っていききたい ☐どちらでもない ☐どちらかと言えば行いたくない
☐行いたくない

11. 地産地消に関する取り組みを行う上で、障壁になっている部分がありましたらご記入ください。

12. 今回のシンポジウムに関するご意見・ご感想がございましたらご自由にお書きください。

※※※ ご協力ありがとうございました ※※※

アンケート集計結果（概要）

1.目的

本アンケートは、「学校給食シンポジウム～地場産物の使用拡大に向けて～（以下「シンポジウム」と言う。）」の聴衆者が、学校給食における地場産物活用の効果、導入にあたっての課題を明らかにし、学校給食における地産地消の普及活動の参考にすることを目的としています。

2.調査期間

2021年11月19日(金)～12月10日(金)

3.調査対象

シンポジウム視聴申込者

4.調査方法

参加申込者に登録メールアドレス宛にアンケートを配布、回収（使用媒体：Googleフォーム）

5.回収状況

配布数： 237件

回収数： 86票（回収率：36.3%）

無効票： 0票 ※性別・年齢・職業のいずれかが空欄のもの

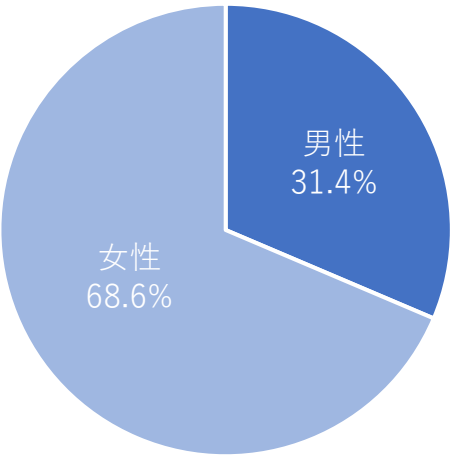
有効票： 86票（有効回収率：100%）

6.アンケートの結果について（サマリー）

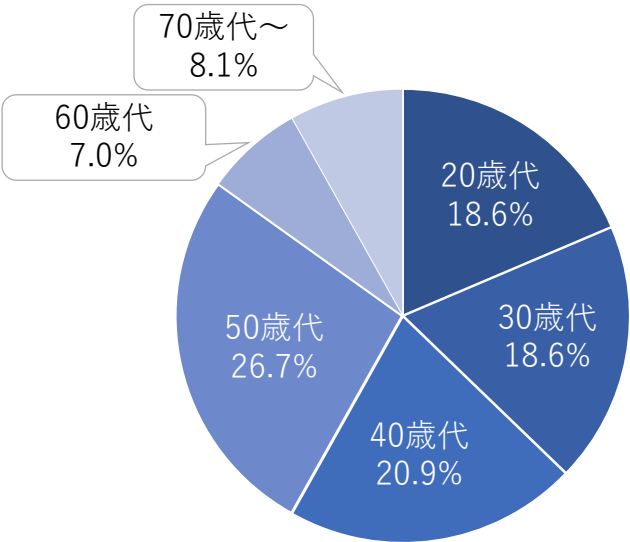
- 参加者の属性としては、約7割が女性、3割が男性で、全体の62.8%が40歳代以上と比較的年齢層の高い傾向がありました。職業としては、1位が栄養士（38.4%）、2位が学校教育関係者（24.4%）でした。
- 事例発表においては、4団体すべてにおいて約7割程度の方が参考になったと回答しており、特に参加者の職業に関連の高い団体（農業者の方が「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」以外の3団体が参考になったと選ぶなど）に対して参考になったと回答しました。
- パネルディスカッションについては、全体の89.5%が内容を理解したと回答しており、その中でも食育活動を行っている方は全員（100%）が理解したと回答しており、食育活動の経験の有無によって理解度に差が出たと考えられます。
- 食育活動の経験については、全体の53.5%が現状行っていると回答しており、具体的には地産地消の活動をされているという方が多い結果となりました。
- 全体の87.2%の方が、今後地産地消の活動を行っていきたいと回答しており、本シンポジウムが目的である地場産物の使用拡大に貢献できたと考えられます。
また、食育活動への取り組みを検討している方のうち、68.2%の方が今後地産地消の活動を「ぜひ行いたい」と回答しており、本シンポジウムが活動に対してのヒントを得られる内容であったと言えます。

アンケート集計結果（属性）

■Q1 性別



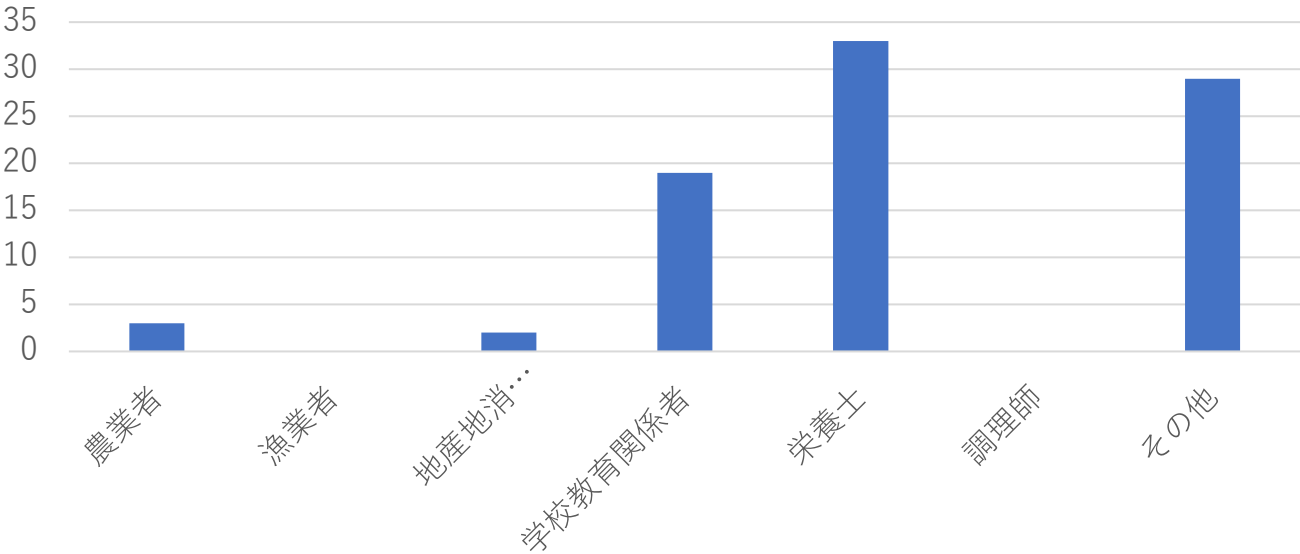
■Q2 年齢



	男性	女性	合計
回答数	27	59	86
比率(%)	31.4%	68.6%	100.0%

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	合計
回答数	16	16	18	23	6	7	86
比率(%)	18.6%	18.6%	20.9%	26.7%	7.0%	8.1%	100.0%

■Q3 職業



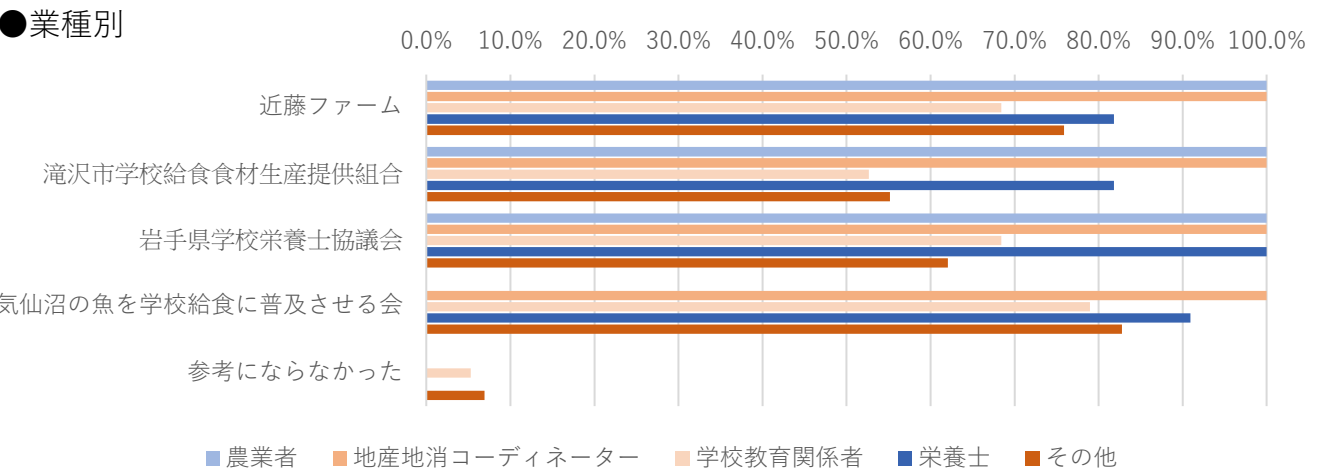
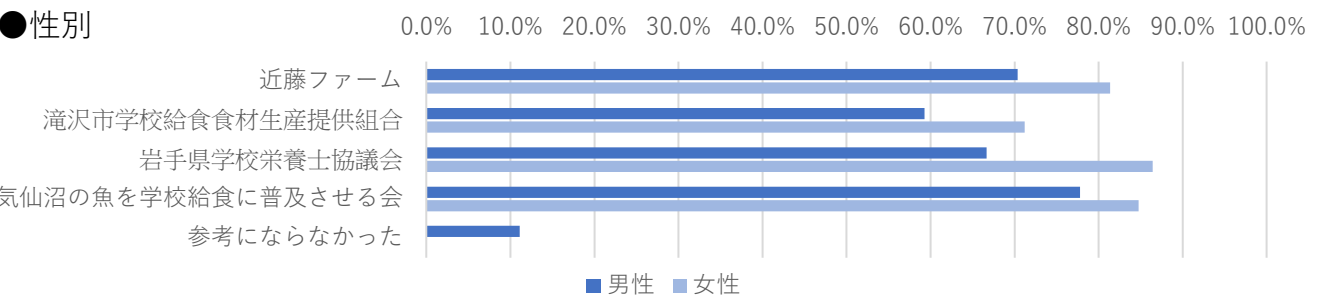
	農業者	漁業者	地産地消 コーディネーター	学校教育 関係者	栄養士	調理師	その他	合計
回答数	3	0	2	19	33	0	29	86
比率(%)	3.5%	0.0%	2.3%	24.4%	38.4%	0.0%	31.4%	100.0%

※漁業者、調理師は0名でしたので、以後の分析では割愛させていただきます。

アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

- Q4 事例発表の中で、参考になった団体はございますか？ ※複数回答可
- すべての団体について、7割程度以上の方が参考になったと回答する結果となりました。
 - 属性別の結果を見てみると、男女では大きく異なる特徴はありませんでしたが、業種別の結果では、農業者が「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」以外の3団体、地産地消コーディネーターが4団体すべて、栄養士が「岩手県学校栄養士協議会」の発表に対して、すべての方が参考になったと回答しており、自分の職種に関連する団体の発表が特に参考になったと考えられます。

		近藤ファーム	滝沢市 学校給食食材 生産供給組合	岩手県学校 栄養士協議会	気仙沼の魚を 学校給食に 普及させる会	参考に ならなかった
全体		67 (77.9%)	58 (67.4%)	69 (80.2%)	71 (82.6%)	3 (3.5%)
性別	男性	19 (70.4%)	16 (59.3%)	18 (66.7%)	21 (77.8%)	3 (11.1%)
	女性	48 (81.4%)	42 (71.2%)	51 (86.4%)	50 (84.7%)	0 (0.0%)
職業	農業者	3 (100%)	3 (100%)	3 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	地産地消 コーディネーター	2 (100%)	2 (100%)	2 (100%)	2 (100%)	0 (0.0%)
	学校教育関係者	13 (68.4%)	10 (52.6%)	13 (68.4%)	15 (78.9%)	1 (5.3%)
	栄養士	27 (81.8%)	27 (81.8%)	33 (100%)	30 (90.9%)	0 (0.0%)
	その他	22 (81.5%)	16 (59.3%)	18 (66.7%)	24 (88.9%)	2 (7.4%)



アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

■Q5 事例発表で具体的に参考になった部分はどのような点ですか？ ※自由記述

●コメント一覧 ※全17件

- ・参考にならなかった部分はありません（30歳代・女性・栄養士）
- ・地産地食を進める上での問題となる点とどのように解決したのかを聞いた点（40歳代・男性・その他）
- ・私自身が「さかな」を教材に食育に取り組んでいるから。（40歳代・女性・栄養士）
- ・工夫次第で地場産を導入できること、生産者の皆さんにとってのメリット（売り先や価格の安定）があること（また、やはり輸送に課題があることが改めてわかったこと）（40歳代・女性・学校教育関係者）
- ・近藤ファームの食材が実際に学校給食で使用されるまでの流れが聞いた点（20歳代・女性・栄養士）
- ・子供の変食が多いこと。ミニトマトの細菌検出。伝統食。（40歳代・男性・農業者）
- ・学校給食に地産地消を進めるにあたり、生産者がどのように考えているのかということが具体的に分かった。（50歳代・女性・学校教育関係者）
- ・漁業関係者が積極的に食育に取り組み始めたこと（60歳代・女性・学校教育関係者）
- ・給食現場と地域の連携（70歳代以上・女性・地産地消コーディネーター）
- ・それぞれの立場・環境下での現場の意見であったこと（60歳代・男性・その他）
- ・生産者が給食導入に積極的に産物を導入するためには予算が厳しいところ（地場産物は必ずしも安い訳ではない）動いているところ、生産者と給食をつなぐ組織が機能しているところ、そもそも給食費が地場（30歳代・女性・栄養士）
- ・地域の水産業が抱える問題と消費者の意識変革の必要性を具体的に聞くことができた。（60歳代・男性・学校教育関係者）
- ・生産から給食として配膳されるまで、多くの人に関わっていて、どこかが抜けてしまうと、地産地消の食材が提供出来なくなってしまう。危機管理などを進んで取り組まれていた事。（70歳代以上・女性・その他）
- ・給食現場で地場産物を使用するためには産地と給食施設をつなぐ仕組み（発注や配送など）が作られることが必要と感じました。（20歳代・女性・栄養士）
- ・具体的な活用方法（50歳代・女性・学校教育関係者）

アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

■Q6 パネルディスカッションの内容は理解頂けましたか？

- 全体の89.5%の方が内容を理解したと回答しており、適切な難易度であったと考えられますが、地産地消コーディネーターと栄養士の方が全員理解したとの回答をしているのに対して、農業者の方は全員が分からなかったと回答しているため多少内容に偏りがあったと考えられます。
- 食育活動を行っている方の全員、現状活動を行っていないが導入を考えている方の86.4%が内容を理解した回答しており、食育活動の経験の有無によって理解度に差が出たと考えられます。

		とてもよく分かった	分かった	どちらでもない	分からなかった	全く分からなかった
全体		11 (12.8%)	66 (76.7%)	6 (7.0%)	3 (3.5%)	0 (0.0%)
職業	農業者	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100%)	0 (0.0%)
	地産地消 コーディネーター	0 (0.0%)	2 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	学校教育関係者	0 (0.0%)	15 (78.9%)	4 (21.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	栄養士	8 (24.2%)	25 (75.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	その他	3 (10.3%)	24 (82.8%)	2 (6.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
食育活動の経験の有無	行っている	5 (10.9%)	41 (89.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	取り組みを始めよう と思っているが、 現状行えていない	6 (27.3%)	13 (59.1%)	3 (13.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	行っていない	0 (0.0%)	12 (66.7%)	3 (16.7%)	3 (16.7%)	0 (0.0%)

